

第2回新居浜市中学校選択制度検討委員会会議録

- 1. 日時 平成26年6月23日（月）18:00～19:20
- 2. 場所 新居浜市役所 3階 応接会議室
- 3. 出席者 委員 本田 郁代 委員 神野 康一
 委員 渡邊 誠一 委員 能瀬 伸一
 委員 神野 年夫 委員 坂上 公三
 委員 工藤 砂絵子 委員 徳田 勝英
 委員 石井 孝允 委員 栗田 敬子
 委員 加藤 哲
- 4. 事務局 加藤 京子 高田 真由美 長井 秀旗
- 5. 傍聴者 なし
- 6. 議題 (1) 委員長あいさつ
 (2) アンケート調査結果等について
 (3) 学校長からの意見等について
 (4) 他市の学校選択制の導入状況について
 (5) その他
- 7. 議事 開会 午後18時00分

事務局	<p>ただいまから、第2回新居浜市中学校選択制度検討委員会を開催いたしますのでよろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして、栗田委員長からご挨拶をお願いします。</p>
委員長	<p>本日は何かとお忙しい中、第2回目の新居浜市中学校選択制度検討委員会にご出席を賜り、厚くお礼を申し上げます。梅雨に入りまして雨の日が続いていますが、ちょうど今頃は、小学5年生が自然の家へ体験学習に行く時期でありまして、また、中学生は総体の市内の予選が終わりまして、県大会へ向けて練習を頑張っている状況でございます。先日、新聞報道にありましたように、政策懇談会の教育力向上ワーキンググループの開催、また、ウィスコンシン州から交換の留学生の来日など、新居浜の子どもたちの教育をとりまく環境が、少しずつではございますがより良い方向に向かっているように思っております。</p> <p>本日は中学校選択制の第2回目の検討委員会でございますが、アンケートの調査結果など資料による説明をいただきまして、今後に向けての課題や問題点</p>

	<p>などについて議論を進めていきたいと考えております。忌憚のないご意見を頂戴いたしたいと思っておりますので、委員のみなさま方には、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>では、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、まず前回の委員会で出ましたご質問等について説明をさせていただきます。お手元に配布の資料を見てください。</p> <p>まず、選択制を利用した生徒の男女別の割合ですが、24年から26年までの3年間の資料をのせていますが、概ね男女の割合は半々となっています。</p> <p>次に、選択制を利用した生徒のその後の通学状況ですが、選択した中学校を途中で変わった生徒は過去4年間で1人となっています。</p> <p>ここで新居浜市の中学生の指定校の変更の状況でございますが、26年につきましては、中学校選択制を利用した生徒が67人（前回の資料では69人となっていますが2人辞退）、指定校を変更された方が58人いらっしゃいます。その内訳といたしましては、小学校卒業時の校区外通学をそのまま続ける生徒が52人、いじめなどの教育的配慮による変更が6人となっています。新居浜市では中学校選択と合わせまして、概ね130名程度の生徒が指定校を変更されています。</p>
<p>事務局</p>	<p>次に、アンケート調査結果等についてでございます。お手元の資料1をお開きください。5月の下旬に、中学校1年生を対象にアンケート調査を実施いたしましたので、その結果の概要を説明させていただきます。なお、資料の9ページ、10ページにアンケートの本文をのせておりますので、それをご覧いただきながら説明を聞いていただきたいと思います。</p> <p>まず、アンケートの回答総数は、1,124人でございます。</p> <p>問2から問4につきましては、中学校選択制申請者対象のアンケート調査を実施しておりますので、その結果を24年から3年分をまとめています。問5から問7につきましては、今回のアンケート調査の結果をまとめています。</p> <p>まず1ページでございますが、問2では、中学校を選択した理由を聞いています。資料の5ページにアンケート結果をまとめていますので、そちらもご覧ください。</p> <p>選択の理由ですが、部活動を理由に選択している場合が最も多くなっています。続いて学校のイメージ・雰囲気の良いことを理由に選択した場合が多くな</p>

っています。学力の評判が良いという理由も多くあります。友人関係、通学距離が近いからという理由も多いのですが、年度によりばらつきがみられます。

次に2ページをお開きください。問3では、入学する中学校をどのように決めたかを聞いています。生徒本人が決めた場合が多くなっていますが、家庭で相談して決めたも増加しています。なお、26年度は、家庭で相談して決めた場合が最も多くなっています。

次に3ページをお開きください。問4では、中学校に関する情報をどのように集めたかを聞いています。夢を育む新居浜市の中学校（中学校選択資料）を見て情報を集めた生徒が最も多くなっています。次に友人や知人を通じた情報収集、兄妹、先輩からの情報収集が多くなっています。

次に4ページをお開きください。問5では、中学校選択についてどう思うかを聞いています。希望する学校で意欲をもって学校生活を送れるが最も多くなっています（61.5%）。次に、生徒の個性や希望が大事にされるという回答が多くなっています。（53.3%）通学の安全制や利便性が高まったという意見（40.4%）、反対に通学距離が長くなり安全性を心配する意見（14.9%）があります。学校間に差や違いが生じる（14.8%）、学級や部活動に影響がでる（12%）、誤った噂や評判がでる（7.7%）と学校選択制のデメリットや不安を感じている生徒も一定数いることが分かりました。

次に問6では、地域とのつながりについて聞いています。学校は地域の人に支えられている（63.3%）、地域とのつながりを強くすることは必要（58.1%）、地域の歴史文化を学ぶことは大事（55.2%）と約6割の生徒が地域とのつながりの重要性や必要性を感じていることが分かりました。地域のために何かしている、したいと回答した生徒は（25.4%）であります。地域とのつながりを意識していない、必要がないと回答している生徒は僅かであります。これまでの小中学校と地域との連携を重視してきた取り組みの成果が表れているものと思われれます。

次に6ページをお開きください。アンケートの自由意見をまとめています。

問5ですが、校区外の新しい友達ができる、という意見と友達をつくり直さなくてはならないという、両方の意見がありました。

問6ですが、小学校に比べると中学校は地域とのつながりが少なくなったという意見がありました。

問7ですが、賛成意見で多いのが、子どもの意見が尊重され勉強や部活に励むことができる、というものです。いじめから逃げられる、仲が悪い人と離れることができる、という意見もあります。校区が他地域の人といろいろな関わ

事務局	<p>りがもてるようになる、という意見もあります。反対意見としましては、小学校とのつながりを考えると地域の学校へ通うのがいい、希望の多い学校と少ない学校の差がでる、地域との関わりが少なくなるので地域の学校へ通うのがいいという意見がありました。</p> <p>次に8ページをお開きください。その他の意見をまとめています。メリットとデメリットと両方あるのでわからない、という意見があります。また選択制度のことは知らない、という意見もあり、集計をしまして中学校選択制度と指定校の変更と混同している、また知らないという生徒も結構いるのではないかと感じました。</p> <p>以上で、中学校選択制に関するアンケート調査結果の報告を終わります。</p> <p>続きまして、お手元の資料2をお開きください。学校長、学校現場からの意見を集約したものでございます。主な意見を読み上げていきたいと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校選択の制度を利用して、指定された学校ではなく希望する学校へ入学する場合、学校選択の許可条件（手続き可能期間や理由等）の厳正な遵守が必要であると考えます。 ・保護者のニーズに応え特色ある学校づくりのために設けられた通学区域弾力化の制度だが、その弊害が表れてきている。本校では、来年度入学予定者の校区外生徒の割合が、概ね4割となった。また、PTA組織の地区別役員数は校区外より選出される役員が、最も多くなる。こうなると校区の小学校との連携の効果も薄くなるばかりか、「地域と共にある学校」という学校本来のあるべき姿から遊離していくように思う。このあたりで、一度、白紙に戻すことも選択肢の一つとして抜本的な改善を図っていただきたい。 ・通学区の弾力化により、生徒数の増減が生じることで、学級数や教員定数に影響し、それが教育課程（免許外担当や部活動の顧問等）の編成まで問題が生じる。また、地域全体で子どもたちをまもり育てる体制づくりの推進のためにも検討が必要である。 ・児童・生徒は地域の宝であり、地域で育てることが基本である。しかし現状は、校区外から通学する生徒が多数を占める学校があり、各学校の学級数の増減に関わる問題まで発生している。また、隣接の学校からではなく、通学距離が10km近い自転車通学生も存在する。 ・学校（特に小規模校）の児童生徒数の減少が教員減少や教育環境の不平等感など、さまざまな問題を引き起こしている。 ・通学区域の弾力化により、校区に関係なく部活動や学校の特色によって学校
-----	--

事務局	<p>を選択している傾向が強い。その結果、地域性が軽視され人間関係も希薄になり、小中連携や地域との交流が図りにくくなってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校選択制度により、中学校生活を充実したものにしている生徒もいることは成果である。しかし、指定学校以外を選択する理由の幅が拡大され、明確な基準も示されないまま、承認されている場合もあるのではないかと。いじめ、不登校対応という理由ならば、導入前でも認可していたように思う。現行の選択制度を廃止しても、個別の対応によって保護者等のニーズに応えることが可能であると考え。 ・場合によっては、兄弟姉妹（小学生と中学生）で通学する校区が異なることもある。PTA活動、自治会行事、公民館活動など地域活動にも影響があり、地域で子どもを守り育てる趣旨からも矛盾が生じている。 ・保護者がPTA活動に参加したくなかったり、役割（地区理事など）からもと外れていることがあったりする。 ・ランドデザインを共に作成し、小中連携に力を入れ9年間を視野に入れた教育活動を計画・実施しているその効果が十分に表れにくくなる。 ・中学校への希望者が多い場合、抽選で決めるのはどうなのか。 ・校区ランドデザインに基づき、本校の教育活動や小中連携した取組を進めており、地域全体で子どもたちをまもり育てる体制づくりやESDを推進していく観点からも、通学区域弾力化の改正もしくは廃止をしていただきたい。 <p>以上のように、概ね、学校現場からは中学校選択制度の見直しを求める声が多数となっています。</p> <p>続きまして、お手元の資料3をお開きください。県内の他市の学校選択制の導入状況でございます。</p> <p>県内で中学校選択制を導入しているのは、松山市と新居浜市の2市です。どちらも隣接区域選択制となっています。松山は、隣接する学校の方が距離が短く、かつ通学の安全性からも妥当であると認められる場合のみで、入学時あるいは松山市外からの転入、市内間転居時に限っています。松山は平成15年から導入していますが、利用者の数は多いのですが、その割合は少ない状況です。（新居浜中学生3,437人、松山中学生12,588人）</p> <p>成果につきましては、特色ある学校づくりが推進できた、保護者の学校教育への関心が高まった、通学距離が短くなり安全確保が容易になった、との意見です。課題については特になしで、見直しを検討する考えはないという回答でした。</p>
-----	---

事務局	<p>次に2ページをお開きください。他市の状況をまとめたものでございます。</p> <p>選択制の未導入の理由ですが、入学者が減少し適正な学校規模が維持できない学校が生じる、がすべての市が選択しています。続いて、安全確保が難しくなる、学校間の序列化や学校間格差が生じるという回答が多くなっています。</p> <p>選択制の導入の検討ですが、四国中央市がありますが、他市ではありません。</p> <p>意見としては、選択制を導入すると生徒数の偏りで小規模校の生徒数の減少が懸念される、部活動ができなくなる、学校運営ができなくなる、といった回答がありました。他市の状況については以上です。</p> <p>続きまして、お手元に小中学校における学校選択制の実施状況について、という資料をお配りしていますのでお目通し頂きたいと思えます。文部科学省の調査結果をまとめたものです。</p> <p>資料の9ページをお開きください。学校選択制の実施状況（24年10月1日現在）でございます。実施しているが195、廃止を検討中、廃止を決定が9、検討していないが1,022、導入を決定したが18、廃止したが6となっています。</p> <p>次に選択制の実施状況の18年度調査との比較ですが、導入検討中の設置者が激減して、非実施の設置者が増えています。18年には項目はなかったのですが、廃止済、廃止検討中の設置者が出てきています。</p> <p>次に10ページをお開きください。選択制導入設置者の年次の推移ですが、平成15年頃から20年位の間に導入設置者が増加していますが、ここ数年は横ばいの傾向が続いています。また、学校選択制の形態については様々で、それぞれの地域の実情を反映しているものと考えられます。</p> <p>次に12ページをお開きください。学校選択制を導入して良かったことの間ですが、子どもが自分の個性にあった学校で学ぶことができるようになった、続いて保護者の学校教育への関心が高まったという回答が多くなっています。</p> <p>次に13ページをお開きください。選択制の導入に際して当初期待していたことの間ですが、特色ある学校づくりを推進すること、子どもの個性に合った学校で学ぶようになること、の回答が多くなっています。次に、廃止を検討、廃止した理由につきましては、学校と地域との連携が希薄になった、通学距離が長くなり安全確保が難しくなった、適正な学校規模を維持できない学校が生じた、という回答が多くなっています。最後に選択制を導入しない理由でございますが、地域との連携が希薄になるおそれがある、安全確保が難しくなる、という回答が多くなっています。以上で、資料の説明を終わります。</p>
-----	--

委員長	<p>ありがとうございました。たくさんの資料で大変だと思いますが、ご意見があればよろしくをお願いします。</p>
委員	<p>新居浜市では中学校の選択制を実施しているのですが、抽選で通学先を決めていることは、本来の意味の選択ではない、抽選になるのでは選択できないように思うのですが、そのあたりはどのように考えていますか。</p>
事務局	<p>本来ですと選択の希望を受け入れられるだけの十分な枠があればいいのですが、学校の規模や学級数などの関係で受け入れることができる枠が決まりますので、その枠をオーバーする希望があると抽選になってしまうというのが現状です。抽選については問題がないのかというご意見もありますので、中学生という時期に抽選で学校が決められるということは、教育的な配慮の面からも検討していかなければならないものと考えています。</p>
委員	<p>校長会の意見としましては、中学校選択制に反対の意見がほとんどです。また選択制に関しまして各教員から意見を聴取していますが、それもほとんどの教員が反対の意見です。学校現場といたしましては、選択制の教育的効果よりもマイナス効果のほうが大きいという捉え方をしています。選択制によって学級減になり教員が減り学校運営が困難になったという現実的な話もあります。学校運営上もこの問題は大きく関係していますので、学校側では見直しをしていただきたいという意見をもっています。</p>
委員	<p>選択制によって登下校の距離が長くなるというのは問題だと思います。文部科学省の調査結果を見まして、現実的には選択制を導入しない、検討しないという自治体が非常に多いのではないかと思います。</p>
委員	<p>ある中学校は選択制の影響で、毎年概ね1クラス相当分の生徒が減少してしまして、学校も大変だと思います。少子化で子どもが少なくなっていますのでクラスの数が減少するのは仕方がないのですが、それ以外の理由で生徒が減るというのは問題があると思います。アンケート調査等の結果はある程度予想されたものでありまして、教育（学校）側は教員数や学校運営を主眼に考えますし、保護者側は部活や学校のイメージなどを重点に考えますので、お互いの意見が交わることはないと思います。要はどこに接点を見つけるかということが一番大事だと思います。私が思うのは、たくさんありますが地域との連携が非</p>

	<p>常に大事だと感じます。子どもは地域に育てられているというのは大事なことです。それは将来、自分が育った好きな地域に帰ってきたい、という思いにつながりますし、地域を愛する気持ちというのは日本人にとって非常に大切なことだと思います。これから選択制度を見直していく時に、選択制度を利用した人、利用したいと考えている人からは、どうして制度を見直したのか、という意見も出るでしょうから、その時に学校サイドだけからの理由だけでは、説明することは難しいのではないかと思います。そのあたりも踏まえまして、保護者の皆さまへも、ある程度納得いただけるようにこれから検討していくことが重要になると思います。</p>
委員長	<p>アンケート調査報告の中で、子どもたちは地域との連携を大事に思っていることが解りますので、やはり地域との連携を大切にしていけるような方向性を考えていかなければならないと思います。他にご意見はございませんか。</p>
委員	<p>選択制度については懸念されることが2点ございます。1点目は学校間の格差がでるのではないかとということです。2点目は小学校、中学校の9年間を見通して校区でランドデザインを定めて取り組みを進めている中で、小学校と中学校の連携ということを考えると、校区から離れて中学校を選択することには心配があるということです。公立学校は公平であるべきだと思いますので、選択制によって学校間で格差が生じることは避けるべきだと思います。</p>
委員	<p>選択制度の利用者からは、制度を利用して良かったという意見が多くではないかと思えます。学校からの意見を集約したものにつきましては、おおいに考えさせられる内容でした。学校現場では大変ではないかと思えますので、元にもどすということを検討するのがいいと思えます。</p>
委員	<p>小・中学校は一貫校として、地域で子どもを育てていきたいという強い意識があります。そのためにも選択制を見直す必要があると思えます。</p>
委員	<p>中学校1年生を対象としたアンケート調査ですが、地域が大切であるという意見が多いのは、1年生だからではないかと思うところもあります。地域では中学校よりも小学校の支援に力を入れておりますので、小学校を出て間もない1年生だから、そういう気持ちも強いのではないかと感じます。3年生を対象にすると、部活や友人関係への意見が多く出てくるのではないかと思います。</p>

委員	<p>地域や故郷への愛着は、小学校、中学校時代に養生されるのではないかと思いますので、できるだけ地域をあまり変えないというのが基本ではないかと思います。</p> <p>人というのはお互い助け合って生きていく必要がありますし、国や地域を愛するという心が人間形成をしていく基本になると思います。地域が活性化して持続的に発展していくためには、地域が生き生きとしていくことが大事だと思います。校区の子どもたちの個性を伸ばしていくためには、もっと校区を広げるとか、いろいろ全体的な校区に視点をあてていくとかという方法もあると思いますのでそういうことも検討していく必要もあるのではないかと思います。</p>
委員	<p>中学校のあり方については、公立ですので同じ適正規模が求められると思います。私立の学校は特色のある学校が近隣にあるということを考えますと、やはり公立の場合は適正規模であることが必要であると思います。先ほどから意見がありますように、今、小中連携して9年間で子どもたちを育てるということで、校区でランドデザインをもとに取り組みを進めています。そういう中で、同じ地域の子どもたちを小中連携で地域ぐるみで育てていくということを考えますと、やはり選択制については矛盾を感じる場所があります。</p>
副委員長	<p>学校と地域との連携が希薄になっていることが一番大きな問題だと思います。義務教育の9年間で地域と連携して地域との絆を大事にしながら地域で子どもを育てていくことが非常に重要だと思います。学校現場からの意見もありましたが、今の制度は廃止して元にもどすことが、子どもたちのためにもいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>アンケートの自由意見の中で、市内の中学校すべてが統一した勉強カリキュラムになればもう少し選択する人が減ると思う、という意見があるのですが、勉強ができると思われていて選択されるような中学校は、実はカリキュラムが違うのではないかと思います。</p>
委員長	<p>実際はどうなのでしょう。</p>
委員	<p>市内の中学校では同じカリキュラムで授業をしています。</p>

委員長	<p>方向性としてはだいぶん見えてきたように思うのですが、ほかにご意見はございませんか。</p>
委員	<p>せっかく選択制を導入したのにふりだしに戻すのではなく、何とか工夫をしてカバーできないかと思っているのですが、なかなかいい考えがありません。</p>
副委員長	<p>そういう意見もあると思うのですが、先ほど学校現場からの意見の中で云われたように、校区外からの通学者が4割近くになるという学校が出てきているということは大変な問題です。現実的にこのような状況になってきていることから、やはり改めていかななくてはならないということで、この検討委員会で機論を進めています。さらにP T Aの地区別役員数は校区外から選出される役員が最も多くなる、とありまして、こうなりますと地域とは全然関係のない学校ということになってしまいます。学校現場や学校と地域との関係を考えますと、もう一度元にもどしていくというのが一番いいと、結果としてでているのではないかと思います。</p>
委員	<p>明らかに交通の便を考えると、ここはおかしいという地域が多分あると思いますので、そのあたりの見直しを提言していただいて、あとは元にもどすというかたちがいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>2年前に校区外の保護者がP T Aの会長をした時に、大変苦勞をされたという話を聞きました。P T Aの会長は地域のいろいろな会合に出ることが多く、そういう会合では割合と地域の顔見知りの人が多く集まるのですが、まずそこに行くとき自己紹介から始まり、どこに住んでいるという説明をしなければならず、大変つらい思いをしたのではないかと思います。小さい頃から地域の中で子どもを育てていくと、その子が大きくなってあいつや会話ができるようになりますので、選択制によって地域とのつながりや関わりがなくなっていくということは問題があると思います。</p>
委員	<p>選択の希望の多い中学校ですが、希望の理由は校風と学力だと思います。部活動で希望されている人はあまりいないと思います。公立の中学校ですから同じカリキュラムですし先生の差もないと思います。ですからどこの学校で学ぼうと本人のやる気ひとつで学力も上がるし、そこに行ったからといって自動的に学力が上がることはないと思います。そのあたりのことを、もう少し示して</p>

	<p>いくことができるようになると、誤った偏見などは少なくなると思います。校風ということでは非行行為の多い学校、少ない学校があると思います。それについても今、いろいろな方が活動されてだんだん縮小傾向にあり、以前に比べるとずいぶん少なくなっています。その学校に行ったから悪くなるのではなく、それは本人や家庭の教育の仕方や考え方が影響すると思います。保護者が本来しなければならない子育てを学校に依存しているということもあると思います。保護者の教育への考え方にもよりますが、どこの学校に行っても本人次第ですよ、ということを示すことができるようになれば、これからの選択制の見直しの議論の中で納得していただける理由のひとつになるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>非行の話が出ましたのでひとつ付け加えますと、通学時間が長くなりますと保護者は子どもに携帯電話を持たせるようになります。それで子どもはLINEなどをするようになりトラブルに巻き込まれることがあります。遠いから友達の家泊まるというようなことから始まるゲーム感覚みたいなものが増える可能性が1人でも増えることはよろしくないと思います。携帯電話がもとでトラブルになる子どもを1人でも減らすためには、この選択制度は見直していただいて、泊りにいくような子どもを1人でも減らすように通学にかかる時間は少しでも少なくしてほしいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>文部科学省の調査結果の資料ですが、18年度の調査と比べて選択制度の非実施の設置者が増えているという実態を考えますと、やはり問題が出てきた段階で改めることは改めたほうがいいと思います。ほかにご意見はございませんか。事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>いろいろとご審議ありがとうございました。第1回、第2回の検討委員会では資料を中心に、中学校選択制を取り巻く環境や現状、課題などの説明をさせていただきました。皆さまに納得していただける理由などは難しいところもありますが、概ねの方向性は見えてきたと思いますので、次回は、本日いただきましたご意見をもとに、今後の選択制のあり方についてまとめをしていきたいと考えておりますので、一定のたたき台の方向性的なものをお示したいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、次回の検討委員会ですが、7月16日（水）13時30分から開</p>

	<p>催をいたしますのでよろしくお願いいたします。場所については応接会議室を予定しています。ほかに委員の皆さまから何かあればお伺いしたいと思いますが、どなたかございませんか。</p> <p>委員 たくさんの資料になりますので、できれば事前に送っていただくようお願いいたします。</p> <p>委員長 ではこれで本日の検討委員会を終了させていただきます。 皆さまのご協力により、円滑な議事進行ができましたことに重ねてお礼を申し上げます。 委員会を終わりにしたいと思います。 ありがとうございました。</p> <p> 閉会 午後19時20分</p>
--	--